

## 令和3年度第3回愛知県循環器病対策推進協議会議事要約

【日時】 令和3年12月24日（金） 午後1時から午後1時30分  
（オンライン開催）

【委員】 出席 19名、欠席1名

【職員】 14名

【傍聴者】 5名

### 【内容】

#### 1 挨拶（愛知県保健医療局 技監 長谷川 勢子）

- ・ 愛知県循環器病対策推進計画（案）について、10月19日から11月17日まで実施したパブリック・コメントでの県民等から意見を踏まえ、計画の最終案を作成した。本日は、この最終案についての御検討をお願いしたい。

#### 2 議題

- （1）愛知県循環器病対策推進計画（最終案）について（資料1～5）
- （2）今後のスケジュールについて（資料6）

#### <主な意見>

- 移行医療を診る人材がいない、少ないことはわかっている。現状を把握した後になるかもしれないが、小児の移行期医療に関する今後の方策に、医療者の育成と入れてはどうか。
- 医療提供体制の整備で、ア急性期医療、イ回復期医療、ウ自宅療養の記載があるが、ア急性期医療のところでは方策が書かれていない。大動脈解離や、心筋梗塞の医療に関する部分になると思うので記載してほしい。特に大動脈解離では、最初に搬送された病院から実際に治療可能な病院に改めて搬送する場合があるため体制の整備を進めるという文言を方策に加えてほしい。
- 県民の皆さんに、心臓病についてどのように伝えるとよいか考えた。民間のテレビ局に、製薬会社がコマーシャルを出しているが、コマーシャルの最後に、心臓病の怖さについてのコメントやメッセージを入れていただけたら、県民の皆様と考えていただけるのではと思う。

- 最終目標が「2040年までに、健康寿命を3年延ばす」という、20年後を目標にしたものになっている。PDCAサイクルをまわしながら、徐々に改善していかなければいけない。
- 施策によって指標やデータの変化をみていくことが大事である。
- 28ページの血管疾患医療連携体系図は、発症後は、1方向的に在宅に向かっていくだけの図になっている。定期検査や再燃あるいは再発時の対応として、在宅医療から急性期のところへ矢印があってもいいと思われる。
- 日本脳卒中協会が一般市民に対する脳卒中の啓発活動などを行っているが、全くの手弁当で、個人的な努力で頑張っている。行政の力で、啓発活動や或いは相談窓口などを作っていただくとよい。